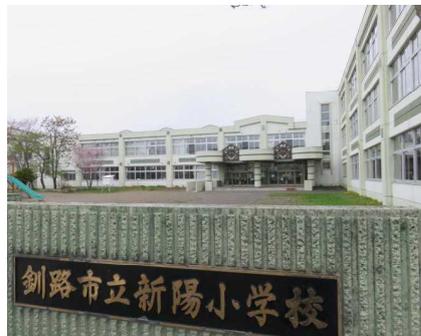


令和2年度 北海道小学校長会 地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：釧路市地区
- 2 事例報告学校名：釧路市立新陽小学校
- 3 報告者職・指名：校長 二瓶 明紀
- 4 キーワード：地震による津波被害を想定した避難訓練の取組

1 はじめに

本校は、釧路市の南西部に位置し、全校児童数91名、学級数9学級（特別支援学級3学級を含む）の市内では小規模の学校である。地域は、釧路西港に隣接し、ミール工場・食品加工・卸売市場・運輸会社・日本製紙釧路工場が点在している。昭和37年に開校し58周年を迎えた。その間、学校・父母・地域が一体となり太い絆のもと教育活動が進められてきた。令和4年度、コミュニティ・スクール導入に向けての準備を行っているところである。本校は、海からの距離が近いことから、地震・津波に対しての意識が高い。その備えについての実践を報告する。



2 防災計画について

本校は、釧路市の津波災害予測地図を見ても浸水の予測が高い。また、「津波警報発令（津波3m）」時の緊急避難場所と指定されているが、「大津波警報発令」時には市営住宅団地が緊急避難場所となることから、訓練の必要性も高い。年度当初から訓練の計画や保護者への周知、防災計画の改善・確認を丁寧に行うようにしている。どこの学校でも行われていると思うが、「命を守る」意識の向上を高めていくように推進している。

3 実践の概要

(1) 防災計画と保護者・地域との連携

年度当初には異動職員などもあることから、防災計画の見直しを必ず行う。誰がどんな役割をもつかを把握するようにしている。さらに地域や学校施設などにも慣れていない職員が、いざという時に的確に判断、行動するためにも確認が重要である。危機管理の備えは、早いほどよいと考えている。また、保護者にも「緊急時における（地震・津波・Jアラートなど）における対応について」という文書を発出して、在校中や登下校時の対応について話し合いをもつことや掲示をお願いしている。



(2) 避難訓練の実際と防災の取組

①取組方法

避難訓練は年5回予定されている。実施時刻や内容に変化を付けているが避難開始から全児童集合までの計測をし、目安の時間を設定して取り組んでいる。また、地区の消防署へも連絡して年に1度、避難訓練での講評をしてもらうなど外部からの指導も仰いでいる。併せて、市営住宅団地への避難訓練では一般道を横断することから警察とも協力し行っている。



もし、実際に避難することがあれば、その交通整理も地域・教職員で行うことも想定した話し合いが行われている。現在は、避難訓練実施について（団地にある避難所を使用するため）の連絡調整を行っているが、今後、コミュニティ・スクールとの関連も含めて、地域・学校合同の避難訓練も計画していかなければならないと考えている。

②避難に対する意識

東日本大震災を教訓にして児童に伝えている言葉がある。「迷うなら逃げろ」である。釜石市の防災教育にあった“津波てんでんこ”に学んだことで、「想定にとられるな」「その状況下で最善を尽くせ」「率先避難者たれ」ということを基にした自分の命を守る言葉である。人は、いざという時に逃げるという判断ができないものだ。どうしようか迷う時間があるなら逃げる時間に使えるということだ。避難場所がはっきりしているからこそ行動に移すことを提唱している。このことは、児童だけでなく教職員にも通信などを通じて周知している。また昨年度、全道校長会研修会で討議された中で「マニュアルとして共有することも大切だが、臨機応変に対応できるスキルや判断力を育てることも必要である」という意見を聞いた。実際場面を想定して考えてもらえるように指導部と協力しながら行っている。



警察署との連携



避難場所（昨年度）



避難の様子

③外部講師による防災教室

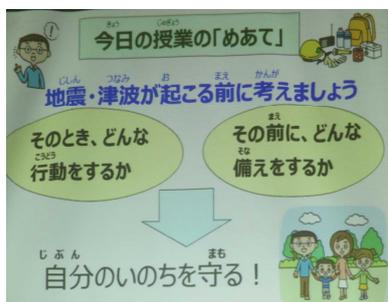
昨年度は、東京海上による防災教室を実施した。実施日を土曜活動日（釧路市で実施している土曜授業日）に設定し、地域・保護者にも参加してもらうことができた。防災教室では、津波が起こるしくみやその時の行動について分かりやすく説明してもらった。簡易トイレなどの防災グッズも実際に触れることができ、避難する際の備えなどイメージをもつことができた。今年度も12月に釧路市と消防署が企画する防災教室を実施する予定である。段ボールベッドを作製し使ってみたり、防災車両の展示、非常食の準備などをして防災意識を高めるようにする。今年度も地域・保護者のみなさんに案内し、連携していくよう計画している。

④その他

学校地区の消防署との連携から防災フェスに参加したり、ポスターコンクールなどにも参加している。入賞者には賞状とともに非常用防災セットがもらえるなど児童・家庭にも防災に接する活動となっている。



防災教育の様子1



防災教育の様子2



防災フェス表彰

4 おわりに

災害は、いつ起こるかわからないものである。備えることは必須なのだが、想定外のことが起こることが極めて多い。いざという時にどのように判断し、素早く行動できるかが問われる。災害にかかわらず、状況把握と臨機応変に対応する判断力や調整力を育てていかななくてはならない。また、地域とも連携していきながら命を守る取組についてさらに充実させていきたい。